

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

|        |   |    |                    |
|--------|---|----|--------------------|
| 代表者氏名  | 井田 政則   | 所属 | 立正大学<br>心理学部臨床心理学科 |
| 研究会等名称 | 生活行動心理学研究会  |    |                    |
| 成果概要   | <p>1. 集会等の参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数）<br/> 下記の理由により集会等を開催できなかつたため、参加者 0 人。</p> <p>2. 集会等の目的・成果等</p> <p>2012 年度に発足した「生活行動心理学研究会」は、今年度で 9 年が経過した。本研究会の目的は、(1)構成員それぞれの心理学研究から得られた成果およびその知見が、私たちの生活領域の中でどのように生かされ役立つかを明らかにすること、(2)どのような問題提起・観点および認識方法にもとづいて研究を行えば、社会に貢献できるのかを検討すること、(3)そのために、各々の具体的な研究結果を発表し、それに対する活発な議論を経て、各自の研究精度を高めることにある。今年度も、これら目的にそつて、少なくとも次のような研究発表会およびゲストスピーカーを招聘して講演会をおこなうことを企画した。</p> <p>1) 2020 年 6 月 構成員・小菅英恵氏による研究発表 テーマ：「運転行動データのパタン化に関する分析」</p> <p>2) 2020 年 10 月 ゲストスピーカー・立正大学名誉教授 井上隆二氏による講演会 演題：「現代社会の変化と心理学者の対応」</p> <p>3) 構成員による研究発表（時期・発表者・テーマは未定）</p> <p>しかしながら、この一年間におよぶ、また現在も全く収束していない新型コロナウィルス禍により、これら研究会・講演会は延期・中止を余儀なくされた。研究会をどのように開催すべきかについて、重ねてのオンラインでの会議・打ち合わせ、幹事会等により検討をおこなつた。だが、二度の緊急事態宣言および首都圏（特に東京）での感染者が収束しないこと、不要不急の外出制限等により、開催を躊躇せざるを得なかつた。その第一の理由は、会場として設定を予定していた立正大学が立入禁止となり、その解除が見込めなかつた。第二に、構成員に多くの高齢研究者が含まれ（招聘ゲストスピーカーも高齢であった）、その基礎疾患も考慮せざるを得なかつた。このようなことから、オンラインでの研究会・講演会開催も検討をしたが、少なくない構成員においてオンライン研究会・講演会に参加できる情報環境がないことも明らかになり、これも躊躇せざるを得なかつた。</p> <p>このような状況下、コロナウィルス禍が治まり感染者数の収束をまつて、研究会の開催を意図していたが、残念ながら、感染防止のため、今日に至るまでそれが適わなかつた。そこで、この間、構成員には、共通テーマをもつた構成員グループや同一所属機関内構成員グループにおいて、研究成果を挙げて頂きたい旨の情報発信をした。その結果、いくつかのグループでは、オンラインによる共同研究の実施、また論文発表等による成果があつたとの報告があつた。</p> <p>来年度は、新型コロナウィルス禍の終息を期待し、今年度中止・延期となつた研究会・講演会、またセミナー・シンポジウム等を開催したいと考えている。またこれまで培つた研究会会員同士の連携を大切にしつつ、新たな若い研究者の参加を得ることで、情報交換の場として、一層、活発な研究会となるよう望む。そして本研究会が、今後の学際的な心理学研究の発展へとさらなる貢献につながることを願つてゐる。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |    |                    |

## 研究集会参加者リスト

| <研究会名>  |  |    |           |
|---|--|----|-----------|
| 生活行動心理学研究会                                      |  |    |           |
| 研究集会開催日 : 成果報告書(様式3)に記載したように研究<br>集会等を開催できなかった。 |  |    |           |
| 氏名  |  | 会員 | 認定<br>心理士 |
| 1   |  |    |           |
| 2   |  |    |           |
| 3   |  |    |           |
| 4   |  |    |           |
| 5   |  |    |           |
| 6   |  |    |           |
| 7   |  |    |           |
| 8   |  |    |           |
| 9   |  |    |           |
| 10  |  |    |           |
| 11  |  |    |           |
| 12  |  |    |           |
| 13  |  |    |           |
| 14  |  |    |           |
| 15  |  |    |           |
| 16  |  |    |           |
| 17  |  |    |           |
| 18  |  |    |           |
| 19  |  |    |           |
| 20  |  |    |           |
| 21  |  |    |           |
| 22  |  |    |           |
| 23  |  |    |           |
| 24  |  |    |           |
| 25  |  |    |           |

(様式5)

2021年3月29日

日本心理学会研究会 2019年度会計報告書

研究会名称 生活行動心理学研究会

研究会番号 研20009

助成金額 ￥30,000

| 年月日        | 項目         | 金額      |
|------------|------------|---------|
| 2021年3月29日 | 返金（日本心理学会） | ￥30,000 |
|            | 合計         | ￥30,000 |